

日本史(13) 平城京の時代①「遣唐使／奈良の都平城京」

○今回のポイント

中断されていた遣唐使は大宝律令の完成とともに再開された。元明天皇により遷都が行われた平城京は、日本初の本格的な都城へと発展。

【 遣唐使 】

(1)唐

①遣唐使の経緯

- ・唐の中国統一(1. 618) ⇒アジアに大帝国。広大な領域支配。都長安は世界的な都市。国際的な文化。
- ・初の遣唐使派遣(630) ⇒[2. 犬上御田歊]が派遣される。
- ・遣唐使中断 ← [3. 白村江の戦い](663)に敗北後に中断。唐に対抗する中央集権的国家建設を目指す
- ・遣唐使再開(702)←[4. 大宝律令]が完成し日本に律令制が整ったため。(894；菅原道真の進言で停止)

②遣唐使隆盛期

- ・8世紀、ほぼ[5. 20]年に1度の割合で遣唐使が派遣された。
- ・遣唐使は留学生、学問僧なども加わり大人数の渡航。
- ・造船、航海技術が未熟であったのでしばしば遭難 ⇒ 死亡
- ・唐から先進的な政治制度や国際的な文化をもたらし、国内に大きな影響。
 - ・[6. 吉備真備]…717～735年、唐に留学。橘諸兄政権に顧問格として参画。藤原仲麻呂の進出で冷遇されるが、仲麻呂失脚後に昇進し、右大臣となる。
 - ・[7. 玄昉]…717～735年、唐に留学した学問僧。橘諸兄政権に参画し大仏造営など護国仏教の確立に努めた。藤原仲麻呂の台頭で筑紫観世音寺に左遷され、その地で死亡した。
 - ・[8. 阿倍仲麻呂]…717年に留学生として入唐。唐に仕官して開元の治を行う玄宗皇帝に重用される。詩人；王維、李白らと交流して、その地で客死した。

③遣唐使の航路の変化

- ・朝鮮半島の西岸を行く[9. 北路]⇒新羅との対立⇒[10. 南路]・南島路(8世紀後半以降)

(2)新羅

①[11. 新羅使]

- ・7世紀後半以降、新羅から日本へは新羅使が派遣されていた。新羅は唐との対抗関係から、日本に対して比較的融和な[12. 朝貢]の姿勢をとっていた。だが、その後唐との関係が安定すると、日本に対する姿勢は強硬化し、その関係は悪化した。

②[13. 遣新羅使]

- ・日本から新羅へと遣新羅使も続いたが、日本は新羅を[14. 従属国]として扱おうとしたので、時には緊張が生じ、8世紀末になるとまばらになった。
 - ・[14. 新羅攻撃]…唐で安史の乱が起こり、混乱が広がると、渤海が唐・新羅に進出する動きに呼応して、藤原仲麻呂は新羅攻撃を計画した(※実現せず。)

(3)渤海

- ・中国東北部に建国されたツングース系[15. 靺鞨族]と高句麗移遺民の国。唐・新羅との関係から日本と通交。
 - ・[16. 渤海使]・[17. 遣渤海使]…唐・新羅との対抗関係から727年～919年の間に34回来日し、毛皮・薬用人参をもたらす。日本も新羅との対抗関係から728年～811年の間に13回の遣渤海使を送った。渤海からは和同開珎が発見されている。

【奈良の都平城京】

(1)平城京遷都

- ・710年、[18. 元明天皇]が藤原京から平城京へと遷都
- ・平城京遷都～[19. 長岡京]・平安京に遷都するまでを奈良時代という。

(2)平城京の構造

- ①[20. 条坊制]…基盤の目状に東西・南北に走る道路で区画される計画都市。
- ②天子南面…中央を南北に走る[21. 朱雀大路]で左京と右京に分ける。
天皇は南に向くので都の東側が[22. 左京]、西側が[23. 右京]になるので注意。
- ③[24. 平城宮]…都の北部中央に位置する。平城宮には天皇の生活の場である[25. 内裏]、政務・儀礼の場である[26. 大極殿]・[27. 朝堂院]、二官・八省などの官庁が置かれる。
- ④寺：大寺院の立派な伽藍建築 ※伽藍は寺院の建物のこと
・[28. 南都七大寺]…大安寺・薬師寺・元興寺・興福寺・東大寺・西大寺

(3)発掘調査

- ・平城宮跡は保存され計画的に発掘調査。遺構や木簡等の遺物から宮廷生活・財政構造が判明。

(4)身分差

- ・[29. 五条]以北の平城宮近く ⇒ 貴族たちの大邸宅。
- ・[30. 八条・九条]などの宮から遠い地区 ⇒ 下級官人たちの小規模な住宅

(5)経済

- ①[31. 市]…左京、右京に官営の市が設置。[32. 市司]がこれを監督。
・地方から運ばれた産物、官吏たちに現物給与として支給された布や糸などが交換された。
- ②[33. 和同開珎]
・708年、[34. 武蔵国]から銅が献上。年号を和銅と改め天武朝の[35. 富本銭]に続けて铸造した
・国家による銅銭の铸造は[36. 乾元大宝]まで12回にわたり続けられ「皇朝十二銭」と呼ばれる。
- ③[37. 蓄銭叙位令]
・銭貨の流通を促進するため、711(和銅4)年に発令。銭を蓄えるために位を与えることにした。
・銭は京・畿内を中心にある程度流通し、地方における富豪層の蓄財も進むが・・・
↓
・貨幣経済が定着するまでは至らず、米(稻)や布による[38. 物々交換]の交易がなお存続した。

